
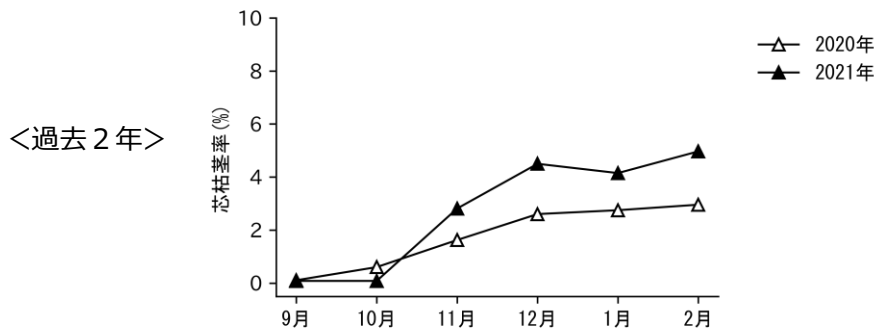
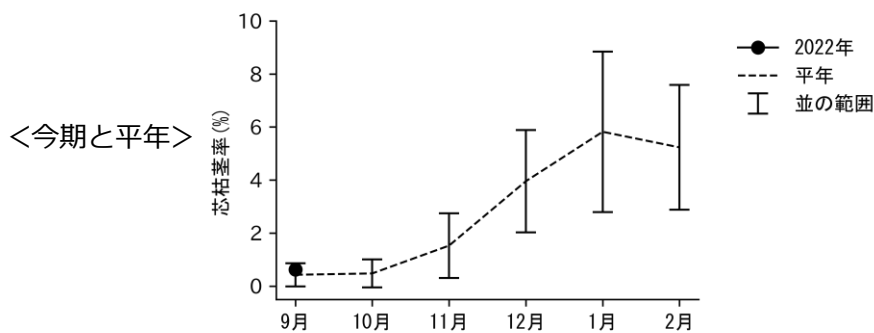


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、優先種はカンシャシンクイハマキであった。
- ・ 発生ほ場率31.2% (平年 : 35.3%)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。